

# まちづくりコーディネーター

## まちづくりコーディネーターとは？

まちづくりコーディネーターは、市に登録したまちづくりの専門家です。知識や経験に基づいて、地域まちづくりの活動に対して様々な助言やコーディネートを行います。

## コーディネーター派遣制度の仕組み

コーディネーター派遣制度は、市からまちづくりコーディネーターを派遣して、地域まちづくりの活動を行う団体を支援する制度です。

- ・派遣の対象は、市に登録された地域まちづくりグループと、認定を受けた地域まちづくり組織、建築協定の更新を行う運営委員会などです。
- ・コーディネーターの派遣に関わる費用は、市が負担します。

## どんなことをしてくれるの？

### 初動期の支援(勉強会ごとに派遣)

まちづくりを行う団体の立ち上げ時など活動の初期には、人と人をつなげていく方法や活動を広げていくために必要なアドバイス、「勉強会」や「まち歩き」を行うことで活動の進め方やまちの課題や魅力を見つける手助けをします。

地域でモヤモヤと感じているまちの困ったことや気になることを具体的に形にして、まちの将来像を地域のみなさんと一緒に考えます。

- 勉強会 …まちづくりに関する基本的な知識や活動の進め方などをレクチャーします。
- まち歩き …まちの課題を明らかにするために、実際に地域のみなさんと一緒にまちを歩いて問題になりそうな場所をチェックしていきます。

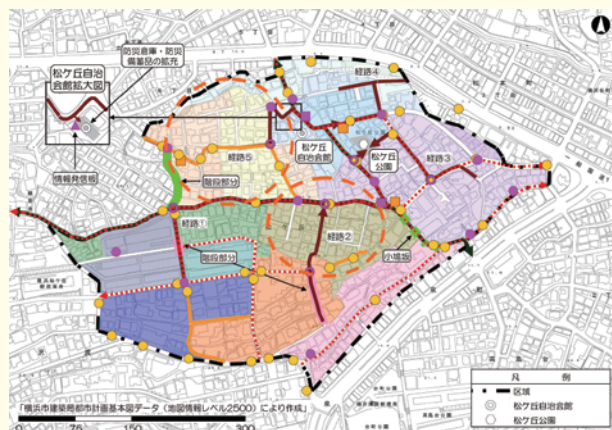


勉強会のイメージ

### 検討段階の支援(年間を通じて派遣)

まちづくりを行う団体によるまちの将来像が定まってくるとその将来像を実現するために、プランやルール案をみなさんと一緒に作成したり、その合意形成に必要な活動をサポートするなどの支援が中心となります。

- プラン・ルール案の作成…プラン・ルール案の作成に必要な知識やノウハウの提供や技術的な支援を行います。
- ニュース等の発行 …検討の内容を地域の人に知ってもらうために、「まちづくりニュース」等を発行します。
- アンケートの実施 …地域の方々にまちの課題、必要な取組、プラン・ルール案の内容に関する意見や賛同状況を確認します。



まちづくりの方針を示した図の例  
(松ヶ丘まちづくりプランより)

## コーディネーターの選び方

まちづくりコーディネーターは、専門性を有する分野に登録しています。活動内容に応じて、該当の分野に登録している中から派遣を希望する地域のみなさんに選んでいただきます。

全てのコーディネーターは、まちづくりの様々な局面の「合意形成」に関する知識・経験を有しています。

平成27年3月末日現在、市に登録しているコーディネーターの人数は右の表のとおりです。

分野	登録者数(人)	総数
ルールづくりまたはプランづくり等	59	78
市街地開発事業等	47	
防災まちづくり等	47	

注) 複数の分野に登録しているコーディネーターがいるため、合計数とは一致しない

## まちづくりコーディネーターの役割

### まちづくりコーディネーター 櫻井淳

#### 地域の課題をその地の特性を踏まえて解決

まちの特徴は、地形や緑、交通の便、どんな建物が多いか、どんな人たちが住んでいるかによって様々です。「まちづくり」という活動は、こうしたまちの特徴を踏まえて、様々な地域の課題を解決したり、まちの魅力をより高めることです。

例えば、「山坂が多く、鉄道の駅まで離れていて、お年寄りが多いので、買物などで外出するのも困っている人が増えているこの地域をどうにかしたい。」こんな相談が行政に寄せられたとします。相談を受けた行政は、課題を解決するための方法や制度を出前塾などで地域にお伝えします。地域が活動を進めていく方向性を決めた段階でコーディネーターに声が掛かることが多く、地域のニーズを捉えて課題解決や魅力向上に取り組むお手伝いをするようになります。またこの時に、法規に基づく制限や行政の考えを分かりやすく地域に説明したり、地域の要望をうまく生かせるよう行政に伝えたりといった、両者の橋渡しをすることもコーディネーターの役割です。

#### 地域の「棚卸」と隠れた人材

コーディネーターとして、私は、まちの特徴を地域のみなさんと一緒に認識するために、まずはその地域の言わば「棚卸」をすることをお勧めしています。良く知っていると思っているまちでも、一つ一つ丁寧にチェックしていくことで、思わぬ気づきがあります。そのために「まち歩き」等でそのまちの「宝物(大事な場所やモノ)」や「問題点」を探し出します。そして住民アンケートなどで地域の意見を聞くことで、まちの特徴を踏まえて、「宝物」を生かしたり「問題点」を解決する方法を探っていきます。

また、「自立できる組織づくり」も私の方針の一つです。地域には、色々な得意分野を持った人たちが必ずいます。こうした人たちにまちづくり活動に関わ

てもらふことで、活動をやらされるのではなく、自分たちで動けるような組織づくりを目指します。

そして、一定期間内に何かを成果としてやり遂げる体験を得ることも、地域のまちづくりで大切なことです。みんなで成功体験を共有して自信を持つことで、行政や専門家に言われるままではない、主体的にまちづくりに取り組むきっかけになるからです。

#### 地域と行政とコーディネーターの協働

私がこれまで取り組んで来た事例の中でも、長い時間をかけながら住民活動の中から地元合意を図ることで、いちから地区計画をつくりあげ、用途地域を変更し、まちづくり協定を結ぶなどの成果を上げた例もあります。こうした成果は、行政の努力と住民のリーダーシップとコーディネーターとの連携があったからこそだと思っています。

こうした地域と行政とが協働できるようお手伝いするのが、コーディネーターの役割だと思っています。



# まちづくりフォーラム開催報告

横浜市の市民による地域まちづくりを支援する「横浜市地域まちづくり推進条例」が制定されてから10年目になりました。そこで、今までの地域まちづくりの取組を振り返るとともに今後の方向性を確認し、併せて市民や異分野の専門家の理解と関心を深めるために、「まちづくりフォーラム」を開催しました。そのイベントの概要を紹介します。

【日 時】 平成27年11月14日(土) 13:00-16:20  
 【会 場】 横浜市市民活動支援センター(中区桜木町)  
 【参加者】 80人

## 1. 基調講演

横浜市地域まちづくり評価書等検討部会の卯月盛夫部会長(早稲田大学教授)から、「横浜市地域まちづくりの10年、その成果と課題」と題して、今回のフォーラムの方向性や課題等について講演していただきました。横浜市地域まちづくり推進条例制定後10年が経過し、今後の地域まちづくりの推進に向けて課題が見えてきました。そうした課題に対する解決のヒントを見つけるためのお話がありました。

### 【主な内容】

- ・市民の発意を待つだけでは、地域に格差が出る。関係者と連携して地域のニーズを聞く事が出来ないか。
- ・まちづくりのプラン・ルールを活用したエリアマネジメントが必要である。
- ・ヨコハマ市民まち普請事業は、まちづくり、市民、職員の3方にメリットがある。縮小せずに拡大すべき。そのためにも、この10年間の成果をしっかりと評価する必要がある。
- ・今後、都市計画と地域まちづくりを連携させていくべきで、法改正も視野に入れた提案をしたい。

## 2. 分科会「つくってきたストーリー」

テーマごとの3つの分科会に分かれて、実際にまちづくりに携わっている方々から、取組や苦労話、地域まちづくりにおける課題、取り組むきっかけについて発表がありました。

### A会場 福祉、防災 × まちづくり

【鶴見区】 東寺尾地域ケアプラザ(自治会と地域ケアプラザの協働) 東寺尾地域ケアプラザ 土屋環 地域交流コーディネーター  
 東寺尾第一自治会 内井寿久 役員  
 【中 区】 一本松まちづくり協議会(防災まちづくり計画の推進) 一本松まちづくり協議会 河野史明 事務局長

- 自治会だけ、地域ケアプラザだけでは限界がある。しかし、自治会と地域ケアプラザが協働する事で、今までできなかったことができるようになったりした。例えば、子育て世代の参加につながった、情報の発信ができるようになった、活動の場の確保に困らなくなったなど様々なメリットがあった。
- 様々な楽しいイベントや活動を行う事で、多くの人が集まってくれる。人が集まるイベントが人材の発掘にもつながる。
- 負担もあるが、各々がやりたいことをやることで、活動の意欲も維持でき、各々の能力を適材適所に発揮できる。



### B会場 コミュニティビジネス、企業連携 × まちづくり

【金沢区】 さくら茶屋にししば(コミュニティカフェで企業連携) NPO法人さくら茶屋にししば 阿部茂男 事務局長  
 【港南区】 港南台タウンカフェ(コミュニティカフェで商店街等と連携) 株式会社イータウン 斉藤保 代表取締役

- 固定費は、業務を受託してまかなう。
- マッチングといっても企業の倫理があるので、やりたいことのミッションを明確にして企業と連携することでうまくいく。
- 「コミュニティビジネス=商売」と誤解をされてしまうため、誤解を解くことが大切である。
- 時間をかけて地域と連携をすることで理解を得られる。
- ニーズを柔軟に捉え、スピード感を持って結果に結び付けていくことが成功のコツ。
- コミュニティカフェの機能は居場所だけではなく、人が関われる場、思いを受け止める場にもなりえる。



## C会場 環境、緑、ゴミ × まちづくり

[旭 区] 白根台第九自治会 (地域緑のまちづくり)

白根台第九自治会

渋谷八郎

自治会長

[緑 区] 鴨居原市民の森愛護会 (粗大ごみの山を市民の手で良好な森へ)

鴨居原市民の森愛護会

阿部昭雄

会長

- 緑の維持には時間がかかる。そのために人材の確保が必要である。
- イベントを行って参加者の中から活動の担い手となる人材を見つける方法が効果的。
- 活動は地域の人々が持っている得意分野を生かす形で行うと長続きする。
- 仲間から出されるアイデアには、まずイエスと言うことにより、団体のやる気が高まる。
- 参加している個人にも地域にも、メリットがあるようにすることで活動が広がる。
- あらゆる場所を使い、様々な活動を行うことで周知につながる。



### 3. ワークショップ「つくっていこう！」

分科会で聞いた話や参加者の経験などを基に、5つのテーマについて、地域まちづくりの活動を推進していくための課題やヒントを話し合い、テーブルごとにキーワードとしてまとめました。

- 【人】… 一人ひとりの個性を生かしてくれる先導者を見つける。  
楽しんでお節介になれるコーディネーターを探す。
- 【情報】… つながるチャンネルを多くする。  
アンテナを個々に立てて情報をキャッチする。
- 【場】… 場は人が集う器。  
地域のニーズが場を決める。
- 【マッチング】… 「ニーズ・興味・要望・できる」を緩く、楽しく束ねるマッチングが良い。
- 【マネー】… あの手この手の知恵を出して活動資金を稼ぐ。



### 4. パネルディスカッション

横浜市地域まちづくり評価書等検討部会の委員が、分科会やワークショップで議論された内容を踏まえて、パネルディスカッションを行いました。最後に、このフォーラムを総括して卯月部会長から、横浜市の今後の地域まちづくりについて、提言をいただきました。

#### 部会長による提言

- ・地域まちづくりを通して、この10年で多くの市民が愛する空間ができてきた。  
10年先、20年先に、この空間を生かしていくための方策を考えていきたい。
- ・ハードは都市整備局、その後のソフトは違う局が支援するような、  
「市民事業」への総合的支援の仕組みをつくるべき。
- ・市民が主体となって取り組むまちの課題解決や魅力向上の取組を、ハードもソフトも含めて「市民事業」と名付けるなど、横浜らしい定義をしてはどうか。

【パネリスト】卯月 盛夫 (早稲田大学教授)、名和田 是彦 (法政大学教授) 奥村 玄 (株式会社GENプランニング)  
河上 牧子 (明治大学都市ガバナンス研究所客員研究員)、室田 昌子 (東京都市大学教授)



※詳しい内容については、横浜市地域まちづくり課のHPで公開しています。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/iinkai/27hyoukashobikai/machiforum.html>

平成28年3月  
横浜市都市整備局 地域まちづくり課

〒231-0017 横浜市中区港町 1-1

TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641

<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/top/>

編集 株式会社 櫻井淳計画工房

デザイン協力 NOGAN

